

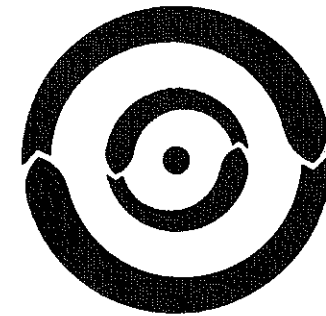
鈴木和子

第三回 韓日教授統一思想 Symposium

基 調 演 說

世界平和と絶対価値

(*World Peace and Absolute Value*)



李 相 憲

韓國 統一思想研究院長

1985. 2. 9~13

日 本 ・ 箱 根

提起되는 數 많은 難問題의 解決을 위하여 最善을 다했습니다. 그러나 그 어느것 하나도 제대로 解決된 것이 없으며, 뿐만아니라 더욱 어려운 問題들이 續出하고 있어서 混亂은 날마다 加重되어가면서 世界狀況은 이제 破局을 向하여 치닫고 있습니다.

이것은 무엇을 뜻하는 것이겠습니까? 그것은 이때까지의 民主主義도, 共產主義도 그리고 宗教도 哲學도 오늘의 人類를 危機에서 救出할 수 없게되었음을 뜻하는 것입니다.

本來 民主主義는 人間權利의 平等과 多數決主義로써 國家와 世界의 問題를 解決할 것을 目標하고 出現하였던 것입니다. 그러나 오늘날 民主主義의 標本으로 일컬어지는 美國도 世界問題의 解決은 커녕 도리어 事態發展의 推移에 끌려 다니면서 갈광질광하고 있습니다.

한편 共產主義는 革命으로써 社會主義를 實現하여 資本主義社會의 構造的矛盾과 社會惡을 一掃하고 勞働者 農民을 解放한다고 約束해 왔음에도 不拘하고, 오늘날 蘇聯의 例를 볼때, 資本主義 社會보다도 더 甚한 矛盾과 社會惡을 드러내고 있으며 더 甚한 榨取와 抑壓, 監禁을 恣行하고 있습니다.

그리고 宗教는 人類의 精神을 善導해야할 本然의 使命을 忘却하고 信仰은 形式化된 敎權紛爭을 일삼고있으며 날이갈수록 世俗化되어 가고 있습니다.

또 哲學은 哲學者들의 勞苦와 그 理論의 緻密性에도 不拘하고 現實과는 遊離된 觀念的으로 흘러서 오늘의 世界問題 解決에는 이렇다할 도움이 되지 못하고 있습니다. 이리하여 오늘날 人類는 民主主義에도, 共產主義에도, 宗教와 哲學에도, 期待를 걸 수 없게 되었습니다. 世界混亂을 收拾하기 위한 오늘날까지의 모든 方案은 結局 失敗하였고 보지않을 수 없습니다. 이와 같이 世界의 混亂이 收拾되지 않는 狀況에서는 世界의 平和는 期待할 수 없는 것입니다.

(三) 混亂收拾의 失敗의 原因

오래도록 人類는 平和에의 간절한 念願을 가슴에 안고 指導者들의 解決方案에 期待를 걸어왔으나 오늘에 이르러 이 期待는 다 빗나가고 말았습니다. 그러면 混亂收拾에 있어서 世界指導者들이 失敗한 原因은 무엇이겠습니까?

그것은 世界混亂의 根本原因을 分析하는데 있어서 하나님의 攝理의 事實을 全然 考慮에 넣지 않고 있었기 때문입니다. 政敎分離原則을 따르고 있는 民主主義의 立場에서 볼때 問題解決의 方案을 模索함에 있어서 神의 攝理를 考慮에 넣는다는 것은 아마도 있을 수 없는 일 일른지 모릅니다. 그러나 統一思想의 立場에서 볼때 하나님의 攝理를 無視하고는 根本的인 問題解決이 不可能하다는 것도 또한 事實입니다.

이에 關하여 다음에 具體적으로 說明하고자 합니다.

例컨대 이라크와 이란과의 關係를 생각해보기로 합시다. 兩國은 다함께 回敎國家이면서 數年來 戰爭을 하고 있습니다. 서로 莫大한 人的·物的損失을 보면서도 勝算없는 싸움을 繼續하고 있습니다. 이 戰爭의 原因은 여러가지 側面에서 分析될 수 있을 것입니다. 政治·經濟·社會·文化·宗教(敎派)·歷史·地理·外交등에 關連되는 多角的인 條件과 要因들이 複合되어서 戰爭의 原因을 이루고 있다고 볼 수 있을 것입니다. 그러나 이것을 한마디로 要約하면 戰爭의 內面的 原因은 兩國의 利害關係의 相衝에 있었던 것입니다. 이것은 아무도 否定할 수 없을 것입니다. 雙方의 利害가 서로 一致할 때에는 싸움이 생길리가 없기 때문입니다.

그러면 利害關係의 相衝의 原因은 또 무엇이겠습니까? 그것은 바로 利己主義입니다. 내 나라만 잘되면 그만이라는 國家利己主義, 自己의 宗派만 잘되고 他宗派는 被害를 보아도 좋다고 하는 宗派利己主義 때문에 같은 回敎國家間에 利害關係의 相衝이 벌어졌다고 보는 것입니다.

그런데 問題는 그 다음에 있습니다. 兩國의 指導者들은 그 國家利己主義나 宗派利己主義가 當然하고도 正當한 것으로 보고 있을 뿐만아니라, 個人利己主義와는 달리 國家利己主義나 宗派利己主義는 이것을 도리어 追求하는 것이 善이요 正義라고 보고 있습니다. 이것 때문에 戰爭을 中止하는 것이 自國에 利益이 된다고 느껴지지않는 限 그 戰爭은 繼續될 것입니다. 世界到處에서 벌어지는 數多한 事件들도 따지고보면 結局 이같은 利己主義에 基因하고 있습니다. 그럼에도 不拘하고 어느누구도 이 점을 問題視하지 않고 있으며 이 점을 解決코저하지 않고 있습니다. 그리하여 各種形態의 利己主義的인 思考方式이 날이갈수록 더욱 深化되고 擴大되어서 世界의 混亂은 이제 걷잡을 수 없는 段階에 이르렀습니다. 世界平和의 敵은 實로 「利己主義」였던 것입니다. 그러므로 世界指導者들이 事實을 깨닫고 國家利己主義를 爲始한 여러形態의 利己主義를 退治할 方案을 講究해야 할 것입니다. 그렇지않는 限 人類의 未來는 暗澹과 絶望 뿐이라고 하지않을수 없습니다.

(四) 神의 攝理와 絶對愛

여기에 하나님의 攝理를 考慮해 넣어야 할 必要性이 있게 되는 것입니다. 하나님의 根本屬性은 心情·사랑이며 그 사랑이 나타날 때 싸움은 和解로 變할 수 있는 것입니다. 하나님의 사랑으로써 쉽게 利己心을 克服할 수 있기 때문입니다. 더우기 그 하나님은 一定한 法則을 가지고 意圖的으로 歷史를 攝理하고 있기 때문에, 그리고 그 攝理의 最終

目標가 사랑이 充滿한 平和의 世界이기 때문에, 그 攝理의 하나님은 願하는 바는 暴力이나 싸움이 아니라 寬容과 和解인 것이며 따라서 戰爭은 國家間的의 戰爭이건 宗派間的의 싸움이건 모두 神意에 어긋나는 것입니다.

사랑을 통한 平和의 實現이 하나님의 攝理의 目的이기 때문에 하나님의 사랑이 實踐되는 곳에 各種形態의 暴力뿐 아니라 富의 偏在, 權力의 濫用, 人種差別, 宗教紛爭 및 그외의 모든 罪惡과 退廢도 함께 자취를 감추게 됩니다. 사랑이 實踐되는 곳에 하나님이 함께 하시기 때문입니다. 그代身 하나님의 뜻(神意)에 어긋나는 일이 오래 繼續되면 一定한 攝理의 法則에 따라서 當事者에게는 반드시 不運이 닥쳐오게 됩니다. 일찌기 孟子는 逆天者는 亡하고 順天者는 存한다고 喝破 하였습니다. 하나님의 攝理로 볼때 이것은 至極히 妥當한 가르침인 것입니다.

事件의 當事者들이 이러한 事實을 確實히 안다면 問題의 解決方案을 세우는데 있어서 생각이 달라질 것이며 神意에 違背하지 않기 위하여 보다더 積極的으로 和解를 追求하게 될 것입니다. 위에서 世界混亂의 原因分析이나 問題의 解決方案을 模索함에 있어서 하나님의 攝理를 考慮에 넣었어야 했다고 指摘한 것은 이 때문이었습니다.

(五) 世界平和와 絶對價値

以上 하나님의 사랑이 實踐될 때에만 戰爭이나 混亂이 根本적으로 終息될 수 있음을 밝혔습니다. 그러나 하나님의 사랑을 實踐한다는 것이 決코 쉬운일이 아닙니다. 왜냐하면 하나님의 사랑을 바르게 實踐하려면 하나님의 사랑이 어떤 것인가를 더 具體적으로 알아야 하며 그러기 위해서는 먼저 하나님의 實存을 認定해야 하며 더 나아가서 하나님의 屬性과 하나님의 創造目的까지를 바르게 알아야 하기 때문입니다. 그러나 여기서는 그것을 일일이 다룰 수는 없습니다. 다만 하나님의 사랑이 實踐될때 어찌하여 和解가 이루어지고 混亂이 收拾되는 가를 統一思想의 立場에서 간단히 밝히기로 하겠습니다.

사랑은 對象을 잘되게 해주고 기쁘게 해주려는 情的인 힘입니다. 하나님은 이러한 사랑을 萬人과 萬物에게 恒常 배풀고 있습니다. 太陽이 예나 지금이나 萬物을 고루고루비 추고 있는 것과 같습니다. 그러므로 하나님의 사랑은 時間과 場所를 超越한 絶對的사랑인 것입니다. 또 사랑은 主體와 對象을 하나로 하는 統一의 힘이기도 합니다.

이러한 사랑이 實踐되게 될때 雙方間에 쉽게 和解가 이루어지는 것은 그 사랑이 利己心을 壓倒하기 때문입니다. 이것은 價値觀이 變化됨을 뜻합니다. 즉 善의 觀點, 참(眞)

의 觀點이 달라짐을 뜻합니다. 즉 하나님의 사랑을 실천하게 되면 이때까지의 自己의 것(個人, 民族, 國家, 宗派等)만을 爲하는 것이 善이요 참이라고 보아왔던 그 觀點이 달라져서 相對方的 個人, 民族, 國家도 相對方的 宗教도 自己의 것과 마찬가지로 위해주는 것도 똑같이 善이요, 참이라는 觀點을 取하게 된다는 말입니다. 따라서 雙方이 다함께 하나님의 사랑을 實踐하면 雙方의 善의 觀點, 참의 觀點이 같아질 것은 두말할 필요가 없습니다. 즉 兩側이 다함께 相對方을 위해주는 것이 善이요, 참인 동시에 匹차에 이익이 된다는 觀念을 갖게 되어서 善이나 참의 基準이 一致되게 됩니다. 이것이 바로 價値觀의 一致化입니다. 하나님의 사랑이 實現될 때, 쉽게 和解가 이루어지는 것은 그 때에 雙方의 價値觀이 一致되기 때문입니다.

따라서 全世界의 指導者들에 의하여 하나님의 사랑이 實踐된다면 全世界의 價値觀 또한 一致될 것은 勿論이요, 이에 따라서 모든 對立과 鬪爭이 終息되고 世界의 混亂이 收拾되게 될 것입니다. 이때에야 비로소 참된 平和가 定着되게 될 것입니다.

하나님의 사랑은 時間과 場所를 超越한 絶對的 사랑이기 때문에 하나님의 사랑을 實踐할 때에 나타나는 價値(眞, 善, 美)는 絶對價値입니다. 따라서 참된 世界平和를 위해서는 世界의 指導者들에 의해서 絶對價値가 實現되어야 한다는 結論이 여기에 세워지게 됩니다. 오늘이야 말로 恒久的인 世界平和를 위하여 하나님의 사랑을 터로하는 絶對價値의 運動이 切實히 要求되는 때라 아니할 수 없습니다.

以上 「世界平和와 絶對價値」라는 主題下에 저의 見解를 披瀝하였습니다. 끝으로 本심포지움에 있어서 여러분의 貴重한 論文發表와 眞摯한 討論을 통해 世界平和를 爲하여 빛나는 成果가 올려지기를 眞心으로 바라면서 이만 글을 맺으려 합니다.

감사합니다.

世界平和と絶対価値

韓国と日本の教授の皆さまがた、自由中国、フィリピン、タイランドから来られた教授の皆様、そして、その他の参席者の皆様、本第三回のシンポジウムにおいて、再び皆様にお会いしてきましたことを心からうれしく思うのであります。また、今回も、公的 私的に、ご多忙にもかかわらず、このように多くのかたがたが参席して下さったことに対して深く感謝の意を表する次第であります。

本日、私が発表しようとする主題は「世界平和と絶対価値」であります。結論から先にお話しすれば、今日の世界的な混乱を收拾し平和を定着させるためには、絶対価値の実現が必要であるということを披瀝しようとするのであります。

では、これから、いくつかの項目を分けて本主題を論じようとするのでございます。

(1) 今日の世界状況

今日の世界状況を端的に表現すれば、暴力乱舞の時代であるといえるのであります。また弱肉強食の時代、あるいは倫理喪失の時代であるともいえるのであります。これを一言で、大混乱の時代であると表現しようとするのであります。対立と闘争、戦争、衝突、紛争、そして拉致、破壊、放火、殺人等の暴力沙汰が世界をおおうており、これにより、無数なる人命が犠牲になつているのであります。

そして、富の偏在によつて多くの人民が貧困に呻吟しており、遠くアフリカ大陸においては数百万名が飢餓線上においてただ今死にひんしつたつあるのであります。そして世界の多くの個所において権力の濫用が行われており、多くの大衆が搾取・抑圧・監禁等によつて苦しんでおるのであり、一方、成年層、未成年層を問わず、また東洋、西洋を問わず、倫理的・道徳的退廃が日毎に甚だしくなつているのであります。

それにまた、アメリカとソ連を中心とする東西陣営の対立、終末を知らない中東紛争、韓半島を中心とする東北アジアの緊張、第三世界と先進諸国間のいわゆる南北問題、そして人種問題と宗教紛争、およびその他の雑多な問題が互いにかみ合つて世界の混乱をより一層悪化させているのであります。

(2) 既存の收拾方案の失敗

長い間世界の指導者たちは、政治・経済・社会・文化・教育・宗教など多くの領域において提起される数かずの難問題の解決のために最善の努力をしてきました、けれども、そのいずれも予想どうりの解決がなされておらず、のみならずさらに多くの難問題が續出しておつて、混乱は日毎に加重されながら、世界状況は今や破局に向かつて進んでいるのであります。

これは何を意味するのでありましようか、それは今日までの民主主義も共産主義も、そして宗教も哲学も、今日の人類を危機から救い出すことができなくなつたことを意味するのであります。

本来、民主主義は人間の権利の平等と多数決主義でもつて、国家と世界の問題を解決することを目標として出現したのであります。しかし、今日 民主主義の標本とも言えるアメリカは世界問題の解決はさておいて、かえつて時代の発展の推移にひきつられて、方向を失つているのであります。

一方、共産主義は革命でもつて社会主義を実現し、資本主義社会の構造的矛盾と社会悪を一掃し、労働者・農民を解放すると約束してきたにもかかわらず、今日、ソ連の例を見ると、資本主義社会におけるよりも 一層の矛盾と社会悪を現わしており、より甚だしい搾取と抑圧、監禁を恣行している所以であります。

そして宗教は人類の精神を善導しなければならない本然の使命を忘却し、信仰は形式化されたまま、教権紛争をこととしており、日毎に世俗化つつあるのであります。

また哲学は哲学者たちの労苦と理論の緻密性にもかかわらず、現実とは遊離されたまま、観念的に流れて、今日の世界問題解決にはなんらの助けともなつていないのであります。かくして今日人類は、民主主義にも、共産主義にも、宗教や哲学にも期待をかけえなくなつたのであります。世界混乱を收拾するための今日までのすべての方案は、結局 失敗したといわざるをえないのであります。このように世界の混乱が收拾されない状況においては世界の平和はこれを期待することができないのであります。

(3) 混乱收拾の失敗原因

長い間人類は平和への懇切なるな念願を胸に抱いて、指導者たちの解決案に期待をかけてきたのでありますが、今日に至ってこの期待はすべてはずれてしまつたのであります。それでは混乱収拾における世界指導者たちの失敗の原因ははたして何でありましょうか。

それは世界混乱の根本原因を分析するに際して、神の摂理の事実を全然考慮に入れていなかつたからであります。政教(政治・宗教)分理原則に従っている民主主義の立場においてみる時 問題解決の案を模索するにおいて神の摂理を考慮に入れるということは、恐らくありえないことのように思えるかもしれません。しかし、統一思想の立場から見る時 神の摂理を無視しては根本的な問題解決は不可能であるということもまだ事実であります。

これに関して、次に具体的に説明をすることにいたします。

例えば、イラクとイランとの関係を考えてみましょう。両国はみな回教(イスラム教)国家でありながら、数年来、戦争をしているのであります。互いに莫大な人的・物的損失を被りながらも、勝算のない戦いを継続しているのであります。この戦争の原因はいろいろ側面から分析できると思いますが。政治・経済・社会・文化・宗教(教派)・歴史・地理・外交などに関連する多角的な条件と要因が複合されて戦争の原因をなしていることができるのであります。しかし、これを一言で要約すれば、戦争の内的原因は両国の利害関係の衝突にあつたのであります。これは恐らくだれもが否定できないだろうと思えます。両方の利害が互いに一致する時は戦いが起こりうるはずがないからであります。

それでは利害関係の衝突の原因はまた何でありましょうか。それがすなわち、利己主義であります。己の国さえよくなればそれまでだという国家利己主義、自己の教派(宗教)のみが得になりさえすれば、他の宗教は被害を被つてもよいという宗教(宗派)利己主義のために、このように同じイスラム教国家の間に利害関係の衝突が起こつたと見るのであります。

ところで問題はその次にあるのであります。両国の指導者たちはその国家利己主義や宗派利己主義が当然で正当であるとするのみならず、個人的利己主義とは異なつて、国家利己主義や宗派利己主義はこれがかえつて追求するのが善であり、正義であると思つて居るのであります。そのために、戦争を中止するのが自国の利益になると考えられない限り、その戦争は継続せざるをえません。これが問題であります。世界至る所で起こつて居る数多くの事件もみなこれを分析してみれば、結局このような利己主義に基因しているのであります。それにもかかわらず、だれもがこの点を問題視していないのであります。それで各種形態の利己主義的思考方式が

日毎に深まつて行き、拡大されて世界の混乱は今やとり返しのつかない段階にまで至つたのであります。世界平和の元兇(敵)は実はこの「利己主義」であつたのであります。それでありますから世界指導者はこの事実を悟つて国家利己主義を始めとする多くの形態の利己主義を退治する方法(案)を講究せねばならないのであります。そうしない限り、人類の未来は暗澹たるのみだと言わざるをえないのであります。

(四) 神の摂理と絶対愛

ここにおいて神の摂理を考慮に入れなければならない必要性が生じて来るのであります。神の根本属性は心情、愛でありその愛が現れる時戦いは和解に変わつてくるのであります。神の愛でもつてたやすく利己心が克服されうるからであります。特にその神は一定の法則をもつて意図的に歴史を摂理しておられますから、そしてその摂理の最終目標が愛が充満する平和の世界であるために、その摂理の神が願われるところは、暴力や戦いにあらずして、寛容と和解であるのであり、従つて戦争は国家間の戦争であらうが、宗派間の戦争であらうがすべて神意にはずれるのであります。

愛による平和の実現が、神の摂理の目的であるために、神の愛が実践されるころには各種形態の暴力のみならず、富の偏在や、権力の濫用、人種差別、宗教紛争、およびその他の多くの罪悪や退廃も共に消えるのであります。愛が実践されるころには神が共にいたもうからであります。そのかわり、神のみ旨にはずれることが長らく継続すれば、一定の摂理の法則に従つて当事者には必ず不運が到来するのであります。かつて孟子は天に逆らう者は滅び、天に順ずる者は存すると喝破したのであります。神の摂理から見た時、これは至極当然な教えであります。

事件の当事者たちがこのような事実を確実にわかるとすれば、問題の解決案を立てるに際して、考えが変わつてくるのでありましょうし、神意に違背しないためにより積極的に和解を追求するようになるのでありましょう。上述の世界混乱の原因分析や問題解決案を模索するに際して、神の摂理を考慮に入れるべきであつたと指摘したのはこのためであつたのであります。

(五) 世界平和と絶対価値

以上神の愛が実践される時にだけ戦争や混乱が根本的に終息されるということを明らかにしました。しかし神の愛を実践するということが決して容易なことではないのであり

ます。なぜならば、神の愛を正しく実践するためには、神の愛がどんなものであるかをより具体的に知らなければならないし、そのためには先に神の実存を認めなければならず、一歩進んで神の属性と神の創造目的までも正しく理解しなければならないからであります。しかしここでは、それをいちいち抜くことは、残念ながらできないのであります。ただ神の愛が実践される時、なぜ和解が成立し、混乱が收拾されるかを統一思想の立場から簡単に論じようとするのであります。

愛は対象をよくなとしめ、喜ばせてやろうという情的な力であります。神はこのような愛を万人や万物に常に施しているであります。太陽が昔も今も万物をあまねく照らしているのと同じであります。それで神の愛は時間と場所を超越した絶対的な愛であります。

このような愛が実践される時 双方間に容易に和解が成立するのはその愛が利己心を圧倒するからであります。これは価値観が変化するのを意味するのであります。すなわち、善の観点、真の観点が変わってくることを意味するのであります。すなわち、神の愛を実践すれば それまで自己のもの、自己の個人、自己の民族、自己の国家、自己の宗派だけを中心とするのが善であり 真であるとみなしてきた その観点が変わつて、相手方の個人、民族、国家も、相手の宗教も自己のものと同じくらいに、これに、ためになつてやるのが善であり、真であるという観点をとるようになるということの意味するのであります。従つて双方がみな共に神の愛を実践すれば、双方の善の観点、真の観点が一致するようになるのは言うまでもありません。すなわち、両方が共に相手方のためになつてやるのが善であり、真であると同時に、お互に得になるという観念を持つようになつて 善や真の基準が一致してくるのであります。これがすなわち価値観の一致であります。神の愛が実現される時容易に和解が成立するのはその時双方の価値観が一致してくるからであります。

従つて全世界の指導者たちによつて神の愛が実践されれば、全世界の価値観もやはり一致してくるのは勿論であり、これによつてすべての対立と闘争が終息し、世界の混乱が收拾されるであります。この時はじめて真なる平和が定着してくるであります。

神の愛は時間と場所を超越した絶対的な愛であるために、神の愛を実践する時に現われる価値(真、善、美)は絶対価値であります。従つて真なる世界平和のためには世界の指導者たちによつて絶対価値が実現されねばならないという結論がここに立てられるのであります。今日こそ恒久的な世界平和のために神の愛を基盤とする絶対価値の運動が切実に要求される時であると言わざるをえないのであります。

以上「世界平和と絶対価値」という主題でもつて、私の見解を披瀝したのであります。終

わりに本シンポジウムにおいて、皆さまの貴重な論文発表と真摯な討論を通じて、世界平和のために輝かしい成果があげられることを衷心からお願いしながらこれで私の話を終わらせていただきたいのであります。ありがとうございます。

World Peace and Absolute Value

Sang Hun Lee

Korean and Japanese Professors, the Professors from Free China, Philippines and Thailand, I am really happy to see you again at this third Symposium. I also sincerely express my heart of gratitude for so many of you participating in it in spite of your being busy publicly and privately.

The theme of my speech today is "World Peace and Absolute Value". To jump to the conclusion, I am going to expound that, in order to settle the present-day confusion of the world, and let peace be established, it is necessary to realize the absolute value.

Then, I am going to discuss this theme by dividing it under the following sub-titles:

(1) The Present-day Situation of the World, (2) The failure of Traditional Method of Settling the Problems, (3) The Cause of Failure in Settling the Confusion, (4) God's Providence and Absolute Love, and (5) World Peace and Absolute Value.

(1) The Present-day Situation of the World

To describe the present-day situation of the world in short, I can express it in terms of the Era of Rampant Violence, the Era of the Stronger Preying upon the Weaker, or the Era of Ethics Lost. In even shorter terms, I am going to express it as the Era of Great Confusion. Antagonisms and struggle, war, collision, and violence including conflict, kidnap, destruction, setting fire, manslaughter and so on, are covering the world, and thereby countless lives of men are being made sacrifice of.

Also many people are suffering in poverty due to the unbalance of wealth. In the far-away African Continent millions of people are falling down in the midst of starvation right at this moment. And in many parts of the world the abuse of power is practised, and many of the masses of people are suffering in exploitation, oppression, confinement, etc., and on the other hand, the depravity of ethics and morality is daily growing greater, whether among adults or among adolescents, or whether in the Orient or in the Occident.

Besides, the antagonisms between Eastern and Western camps centering on the United States and Soviet Union, never-ending Middle East conflict, tensions in

North-Eastern Asia centering on the Korean Peninsula, so-called North-South problems between the Third World and advanced countries, racial problems, religious conflicts, and other miscellaneous problems, tangling with one another, are deteriorating the confusion of the world.

(2) The Failure (Bankruptcy) of Traditional Method of Settling Problems

World leaders paid their best efforts for a long time in order to solve numerous difficult problems posed in many fields including politics, economy, society, culture, education, religion, etc.. However, no good solution has been made in any of the problems; not only that, more of difficult problems are continually arising, and confusion is being increased day by day, and world situation cannot but be described as proceeding toward destruction.

What does this mean? It means that the existing democracy and communism, or religion and philosophy, have come to fail in delivering the present-day mankind from its crisis.

Originally democracy arose with the goal of settling the problems of the nation and of the world through equality in human rights and majority rule. However, today the United States, which may be called the specimen (model) of democracy, has lost its direction, being swayed by the transition of the development of the times, much less settling the problems of the world.

On the other hand, communism, in spite of its having promised to realize socialism through revolution, to eradicate the structural contradictions and social evils of capitalist society, and to liberate the working men and farmers, is exposing greater contradictions and social evils than those of capitalist society, and is practising exploitation, oppression and confinement to a more considerable degree.

And religion, forgetting its original mission to guide the spirit of mankind toward goodness, is indulged in the conflicts over the church power, while faith remaining formalized, and is being secularized day by day.

Philosophy, in spite of philosophers' hard efforts and its theoretical sophistication, is left isolated from reality, lapsing into idealism, and fails to be of any help for settling today's problems of the world. Thus, today it has become impossible for mankind to place any hope on either democracy or communism, or either religion or philosophy. We can not but say that every existing method for solving the confusion of the world, has ended in failure after all. In this way, one can not expect the

peace of the world in the situation where the confusion of the world can not be settled.

(3) The Cause of Failure in Settling the Confusion

For a long time mankind has placed hope on the methods of settlement by the leaders with an earnest hope for peace in their minds, but all of this hope has not been fulfilled as of today. What is the cause of the failure of the world leaders in solving the confusion?

They have failed because they do not take into consideration the fact of God's Providence in analyzing the fundamental cause of the confusion of the world. In the position of democracy following the principle of separation of politics and religion, it may seem impossible to take God's Providence into consideration in searching for the method of settling the problems. Nevertheless, it is also the fact that no fundamental settlement of the problems is possible when one disregards the Providence of God.

I am going to explain this concretely in the below.

Let us consider, for example, the relations between Iraq and Iran. The two nations, though they are both Islamic countries, have been engaging in the war for the past years. While both are suffering from immense amount of human and material losses, they are continuing the war in which neither seems to win victory. I think the cause of this war may be analyzed from various aspects. One may hold that multi-lateral conditions and factors relating with politics, economy, society, culture, religion, history, geography, foreign policy, and so on, being combined, form the cause of the war. And yet, in short, the internal cause of the war lay in the conflict of interests between the two countries. I consider that this can not be denied by anyone. For, when the interests of two sides are in accord, there is no possibility for a war to occur.

Then, what is the cause of the conflict on interests? It is namely egoism. I hold that the conflict of interests between the same Islamic countries occurred because of their national egoism, which seeks their own interests and because of their religious egoism, which seeks their own interests for their own religious sect.

By the way, the problem lies in the next point. The leaders of the two countries not only hold their national egoism and religious egoism to be proper, but even hold that pursuing them is good, unlike the case of egoism of an individual person,

which is usually regarded as evil. Therefore, unless it is considered to be beneficial to stop the war, the war will continue. This is the problem. Numerous incidents taking place in all over the world are, when they are analyzed, derived from such egoism after all. Nonetheless, no one holds that point to be the problem, nor tries to solve the point. Thus, different forms of egoistic way of thinking are gradually deepened and expanded, and the confusion of the world has now come to an even irrecoverable stage. The enemy to world peace proves, in reality, to be this "egoism". Therefore, the leaders of the world should appreciate this fact, and study the method of conquering many forms of egoism including national egoism. As long as they do not do it, it cannot but be said that the future of mankind is only gloomy.

(4) God's Providence and Absolute Love

Here comes to arise the necessity to take God's Providence into consideration. God's fundamental attribute is Heart and love, and when that love appears fight will change into reconciliation. For egoism can be overcome easily by the love of God. Since God carries on the dispensation of history intentionally with definite laws, and because the final goal of the Providence is a world of peace filled with love, what the God of Providence wishes for is neither violence nor battle but tolerance and reconciliation. Therefore, the war is a deviation from the Will of God, whether it is the war between nations or the war between religious sects.

Because the realization of peace through love is the purpose of God's Providence, where the love of God is practised, not only various forms of violence but also unbalance of wealth, abuse of power, racial discrimination, religious conflicts and many other sins and crimes and depravity will disappear. For where love is practised, there God dwells. and yet, if a deviation from the Will of God lasts long, misfortune befalls to the ones concerned according to the definite laws of Providence. Mencius once dared to clarify that "the one who disobeys Heaven will perish, and the one who obeys Heaven will exist (survive)". Seeing from God's Providence, this is the very proper teaching. If the ones concerned in a given event understand such a fact surely, then their thinking, in establishing the method of settling the problems, will change, and they will come to seek for reconciliation more actively (so as not to defy the Will of God). It was for this reason that I pointed out that the Providence of God should be taken into consideration in analyzing the

cause of the confusion of the world and in searching for the method of settling the problems, as I covered in the above.

(5) World Peace and Absolute Value

I clarified so far that, only when the love of God is practised, war and confusion can come to an end radically. However, it is not easy at all to practise the love of God. For, in order to practise the love of God properly, one must know concretely what the love of God is like, and for that sake, one first needs to recognize the real existence of God, and furthermore, one needs to understand even the attributes of God and His Purpose of Creation correctly. And yet, I cannot deal with them one by one here. I am going to discuss simply from the position of Unification Thought on why confusion is settled and reconciliations is formed when the love of God is practised. Love is an emotional power to make the object well and to please it. God is always providing all men and all things with that kind of love. It is the same as the sun shines on all things everywhere now as in the past. Thus the love of God is absolute love transcending time and place.

When that kind of love is practised, reconciliation is easily formed between the two sides, because such love overwhelms egoistic minds. It means that their views of value change. That is to say, their viewpoint of goodness and viewpoint of truth will come to change. In other words, when the love of God is practised, the traditional viewpoint that centering on oneself—one's own individual, race, nation, and religious sect—is good and true, will alter. And one will come to take such a viewpoint that it is also good and true for one to serve for other individuals, races, nations, and religious sects as much as, for one's own. Accordingly, if the two sides practise the love of God together, then it goes without saying that their viewpoints of goodness and truth will come to be in accord. In other words, they will come to have such a concept that it is not only good and true for them to serve for each other, but also mutually beneficial, and their standards of goodness and truth will come to coincide. It is the very accord to their views of value. When the love of God is realized, reconciliation will be easily produced because their views of value will come to coincide.

Therefore, if the love of God is practised by the leaders of the entire world, it is a matter of course that their views of value will also come to coincide,, and all antagonisms and struggles will thereby come to an end, and disorder of the world will

come to be settled. Only then will true peace come to be established.

Since the love of God is absolute love transcending time and place, the values (truth, goodness and beauty) which appear when the love of God is practised, are the absolute values. Consequently, the conclusion is established here that the absolute value ought to be realized by the leaders of the world for the sake of true world peace. I cannot but say that today is the very moment when the movement of the absolute value based on the love of God is keenly urged for the sake of everlasting peace of the world.

I have so far disclosed my view under the title of "World Peace and Absolute Value". Lastly, I hope sincerely that a brilliant result may be brought about in this symposium for the sake of the peace of the world through your valuable presentations and earnest discussions. Let me conclude my speech now. Thank you.